

【暗証聖句】「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです」ヘブライ 9：2

【今週のポイント】

【日・信仰によって生きる義】

ヘブライ人 10 章 35、36 節「だから、自分の確信を捨ててはいけません。この確信には大きな報いがあります。神の御心を行って約束されたものを受けするためには、忍耐が必要なのです」

忍耐は、最終時代の神の民の特徴です。約束されたものを受けするためには、忍耐が必要だからです。しかし、忍耐を持ち続けるためには、信仰が必要です。かつて、荒野を旅した先祖たちは、この信仰が足りなかったために、約束のものを受け取ることができなかつたのです。だから、確信を捨ててはならない、信仰を持ち続けよと、ヘブライ人への手紙は教えているのです。ここで著者は、ハバクク書 2：2～4 の引用し、「もう少しすると、来るべき方がおいでになる。遅れられることはない。わたしの正しい者は信仰によって生きる。もしひるむようなことがあれば、その者はわたしの心に適わない」（ヘブライ 10 章 37、38 節）と言います。ハバククが活躍したのは、ユダ王国末期のバビロンの侵略の危機にあったときです。そのとき、主の裁きを祈り求めましたが、彼らは主が介入されるのを待たなければなりません。バビロンの攻撃は神様に逆らうイスラエルに対する主の裁きであり、主のご計画であったからです。その意味では、主の助けが遅れているように感じることもあったとしても、決して遅れているわけではないのです。私たちは主の定められたときを待たなければならないのです。ここに信仰が必要なのです。「もし、ひるむことがあれば、その者はわたしの心に適わない」とさえ主は言われています。「正しい者は信仰によって生きる」のです。

【月・信仰によってアブラハムは】

ヘブライ人への手紙 11 章 1 節「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」信仰とは何か。それは望んでいる事柄を確信することだと言います。そして、見えない事実を確認、すなわち生活を通して実証していくことです。旧約聖書に出てくるアベルやエノク、ノア、そしてアブラハムなどの信仰者たちがいかに信仰に生きたかが、ヘブライ 11 章の中で語られています。その中でもアブラハムの信仰は、信仰の本質を教えてくれるものとして取り上げています。神様はアブラハムにやがて子供が生まれ、星のようにまた海辺の数えきれない砂のように、子孫が増えることを約束されました。ところが、やっと生まれた一人息子のイサクを、燔祭としてささげよと主は言われたのです。大切な子供を手にかけて殺せとは、神様はなぜこのような酷いことを言われたのでしょうか。それはアブラハムの信仰を試すためでした。なかなか約束の子が生まれず、年老いていき、常識的には子供を産めない年になったとき、もう子供は無理だと諦めてしまいました。それでもなお、子供が生まれるとの知らせに、二人は神様を嘲笑ったのでした。そのためサラが赤ちゃんを宿したとき、二人は自分たちの不信仰を心から反省したのでした。このような背景の中で、神様はイサクを捧げよと命じることで、アブラハムの信仰を試されたのです。どんな信仰を試されたと言うのでしょうか。それはイサクが生まれることを疑ったアブラハムに対して、今度はイサクから多くの子孫が生まれるということに対して、信仰を試されたわけです。イサクを燔祭としてささげれば、もう子孫が増えることはできなくなってしまいます。それでもなお、子孫が増え広がっていくことを信じるかというわけです。モリヤの山までの 3 日間、アブラハムは神様に祈り続けました。そして、モリヤの山についたころには、すっかり信仰の戦いに勝利していました。アブラハムはイサクを捧げても、主が再び復活させてくださると信じるに至っていたのです。

ヘブライ人 11：19「アブラハムは、神が人を死者の中から生き返らせることもおできになると信じたのです」

この信仰を主は義と認められました。信仰による義の原点です。

【火・見えないものを信じたモーセ者たちは】

ヘブル 11 章ではモーセの信仰も大きく取り上げています。その中でまず賞賛しているのは、「信仰によって、モーセは成人したとき、ファラオの王女の子と呼ばれることを拒んで、はかない罪の楽しみにふけるよりは、神の民と共に虐待される方を選び、キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考え」（ヘブライ 11：24～26）たことです。エジプトで王女の子として生きるなら、富も地位も名誉もあったことでしょう。しかし、そのようなものを手にすることよりも、モーセは神の民と共に虐待され、キリストのゆえに受けるあざけられるほうを選んだのです。それは、天において「与えられる報いに目を向けていたからで」（ヘブライ 11：26）あり、そのようにできたことこそ信仰の力だと言うわけです。また、モーセの信仰は富や栄誉を捨てさせたわけではありません。それは同時に、「王の怒りを恐れず、エジプトを立ち去」（ヘブライ 11：27）る勇気をも与えました。それは「目に見えない方を見ているようにして、耐え忍んでいたから」だと続けます。モーセの信仰の勝利の秘訣は、見ている世界がこの世ではなく神様であったということです。私たちはいつもどこに目を向けているでしょうか。

【水・信仰によってラハブとその他の者たちは】

ヘブライ 11 章であげられた信仰の勇者たちの中で、最もふさわしくないのが最後に登場するラハブからしれません。彼女は異邦人の遊女でした。エリコの町が陥落する場面で偵察隊をかくまった女性ですが、リーダーだったヨシュアではなく、ラハブを取り上げているのです。ラハブの信仰については、ヨシュア 2：9～11 に次のように記されています。そこには、エジプトで神様がイスラエルの民になさった数々のことを聞いて、自分たちは心がくじけ、もうあなたたちに立ち向かおうとする者は一人もないということ、そしてラハブは、「あなたたちの神、主こそ、上は天、下は地に至るまで神であられるからです」と信仰告白していることが記されています。実際に見たり、体験したわけではないけれども、神様を信じたのです。このことは同じように、聖書の出来事を実際に見たわけではない私たちが、それを信じるというのと似ているかもしれません。異邦人であるにもかかわらず、間接的に聞いて神様を信じたという点を取り上げ、信仰者の一人として高く評価しているようです。

【木・信仰の創始者また完成者であるイエス】

私たちが聖書に出てくる信仰者たちのような信仰を持つために重要なことは、「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめ」ることです。（ヘブライ人 12 章 2 節）イエス様から目を離しては、本物の信仰を持つことはできません。信仰を完成したければイエス様を見つめることです。私たちに信仰を与えてくださったのはイエス様です。イエス様が私たちの信仰を始めてくださったのです。イエス様は、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである」（ヨハネ 15：16）とも言われています。そのイエス様は、私たちの信仰を導き、成長させてくださり、そして、最後には完成させてくださるのです。

ペリピ 1：6（新改訳）

「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。」

イエス様ははじめであり、また終わりです。ここにすべての鍵があるのです。